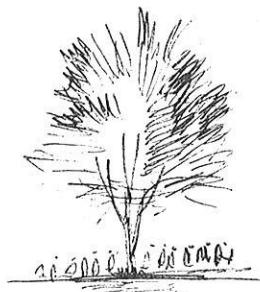


ひかりのこ

光の子



No.84 1999. 11. 1.

● わたしは世の終りまでいつもあなたがたと共にいる。

(マタイによる福音書 28章20節)



え・中島英子

纂執 (『春野』主宰)

軒下にたまる日の香や冬隣

抱かれて骨壺帰る花野かな

蟻涙にしばらく釣瓶落としの日

豊の秋念佛堂に閻棲んで

つばめ去る沖向きしまま船朽ちて

蓑虫の児だしてゐる月夜かな

木の股に縄の擦り疵秋祭り

「花野」

2つの文化に生きる

18

子どもたちがは新しい学校生活にはもうすっかり慣れたようである。宿題も手際よくこなしている。ただ一つだけ、まだ不慣れなのは定期を持つことである。通学定期というものは子どもたちは今まで持つたことがなかつたので毎朝緊張しながら出していくものの、今までに駅に着いてから忘れたことに気がついたことは少なくない。定期継続の手続も切れる期間がギリギリになつてから思い出して、駅の窓口に駆け込んだりして、まだまだ不慣れである。ちょっと困ってしまったのは三月の定期継続手続の時だった。早めに手続をしておけばよかつたのについ期限が切れる当日まで気がつかず、ぎりぎりになつて駅の窓口に駆け込んだ。申

普通ならそこで引き下がるのかも知れないが、私はその「学年末」というところに引っ掛けた。なるほど社会一般では三月は学年末かも知れない。けれども子どもたちが行つている学校では六月が学年末そして九月が学年始めるのだ。私はどうしてもそこで引き下がる気になれなくて、「うちの子どもたちはアメリカンスクールに行つているんです。学生証を見てもわかるように子どもたちにとって、今は学年末ではないんです。通学証明書は九月に新しいものを出したから今は知らないでしよう。今年九月まで学年が変わらないんだから。」とやや強気に出た。それでも駅員さんは「決まりは決まりだから」と断固として譲らない様子である。

「どうしよう、定期を作りましょう。」
と、迷惑そうな顔で言つて、結局そ
の場ですぐに作つてくれたのだ。
帰りの車の中でとにかく、なんだ
か疲れて疲れてしようがなかつた。
所謂『普通の人』と違つた要求をす
るとはこんなに疲れるものかと、た
め息が出てしまつた。私はあの駅員
さんにとつては、ただ口うるさいお
ばさんでしかなかつたのだろうか。
「例外を認めて欲しい。」と主張した
私の心の中には何があつたのだろう
か。

考えてみれば、例外、つまり『普
通の人』と違う生活は夫と結婚した
時から続いている。結婚届をしてい
るにもかかわらずわたしたち夫婦は
市役所では夫は外国人登録に、私は

ただ単に子どもたちには半分は日本の、半分はアメリカの教育を受けて欲しくて決心したことだったのだ。いろいろ考えていくと私が駅の窓口でムキになつたのは「社会にはいろんな人が生きている。そのひとり一人の存在を認めて欲しい。」と言いたかつたことに気がついた。障害を持つている人、外国から来て住んでいる人、病気を持っている人、健康な人、大きい人、小さい人、外見も違う様々な人たちみんなが平等に生きているのが「社会」なのである。

ご挨拶

主の御名を讃美申し上げます。

いつも子どもたち、職員たちのことを祈りの端に加えお支え下さっておりすることを心より感謝申し上げます。

この度、福島先生のご退任に伴い、第8期の理事長としての重責を託されることになりました。

当初、何で私のような信仰心も薄く、浅学非才なものがと躊躇しましたが、しかし、必要とされるので

思い直し、理事就任を応諾し、役員の皆さまと共同して最善を尽くしたいと決意しました。

理事長 飯 田 進

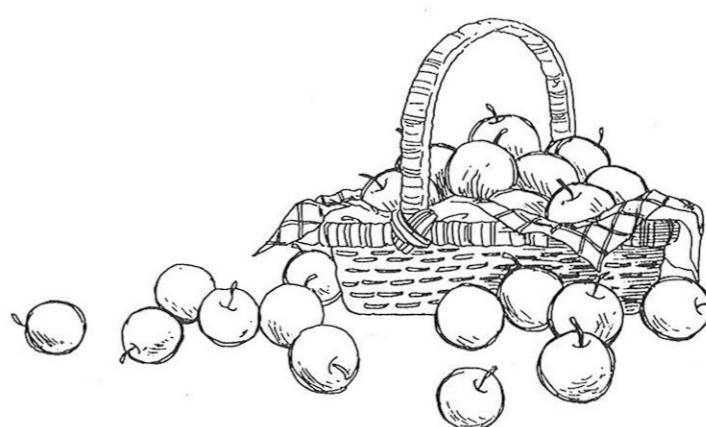
私は、「小舎制養育研究会」の研究仲間として、菅原先生や職員の皆さんとの交流が始まりました。先駆的、独創的な養護理論と実践に取り組んでいた姿を、いつも頗もしく、また、羨ましくも思っていました。

実は、この文章を書こうと思いつながら、なかなか取り組めず、仕方なく書棚の中の本を整理していました。日本ソーシャルワーカー協会の事務局長として長い間活躍された、故筑前甚七先生から贈呈いただいた「ソーシャルワーカーと倫理綱領について」という小冊子を見つけました。何気なく頁をめくると、昭和六〇年に「光の子どもの家」の設立に関わる出来事の顛末がまとめられていました。何気に飛び込んできました。

今、その施設の経営責任者として文章をまとめようとしていた矢先であります。ただきながら読み通さなかつた自分がいに驚きました。折角贈呈していただけに、偶然とは言え不思議な出会いに驚きました。

ただきながら読み通さなかつた自分に首をすくめながら読み進んでいくと、当時、ニュースとして報道され織をあげて「光の子どもの家」をバツクアップした事實を改めて知ること

地域の大変な反対運動を受けながら、福島前理事長を中心に、理事会、職員が力を合わせ必死に施設を守つてきましたことがよく分かりました。その真摯な努力が、今日見られる町当局や地域住民のご理解と協力関係構築の要因となっているのでしよう。施設創設の時期から今日まで、運営や児童処遇の重要な責任を一貫して背負ってきた職員が七名も頑張つて支え、処遇効果を高めている実績は、施設にとって大きな宝だと思います。今後、子どもたちにとって必要な職員として、また施設として資質の向上が強く求められています。



卷之二

卷之三

われわれ大人はこの事実に重大な責任を負っている者として、決して忘されることなく、平和な世界を子どもたちに提供していかなければなりません。世界は二世紀に突入しそうとしています。わが国の大きな課題である「少子・高齢社会」に対応するため、今、われわれは何をすべきなのでしょうか。

学者もどきのつぶやき ⑯
福島先生ご苦労様でした

山形大学医学部教授

仙道 富士山

はも激しいお手綱に、私などは思わず笑つてしまつた。失礼を承知で申し上げると、邪気がないという意味では、先生は幼子にも似ておられるの

福島勲先生は「光の子どもの家」の理事長を辞任されたい旨の話を三前からされていた。お年を召されたからというのが理由であった。しかし、確かに先生の生理的年齢は八〇歳を超えてはいるが、精神的なそれは、私などより

ひかりのこ

猫を飼っている。現在七匹。かつては十三匹いたのだが半分に減った。全て雑種で、名のある種類のものは一匹もない。

猫たち

エッセイ

特別に猫好きというのでもない。人によつては、動物を育てるのは子どもの教育に良いという人もいるが、私の家の場合、それほど立派な理論のもとに飼つているわけではない。もち論、嫌いではない。

もともとこの猫のファミリーの元祖は、十年も前、娘が学生時代、東京で三軒長屋のアパートに住んでいた時、友だちと二人で捨て猫を拾つたのが始まりである。大事に大事に育てていたのだが、夏休みが来て困つてしまつた。友だちは故郷の長崎に帰るので、近い埼玉の娘が一夏あずかることにした。そこで、我が家で育てているうちに居付いてしまい、次々に子どもを産んでしまつたというわけである。

ところが、家族が増えてくると、つまり、世代が三世代くらいになつてくると、家族関係が微妙に変化してきつたのである。最も尊敬されてしかるべき初代の猫が、家を出て行つ

てしまつたのである。御本人が自發的に出ていつてしまつたのか、子や孫に追い出されたのか、わからない。若し自發的だつたのなら、この猫は子や孫たちの家庭の平和のために身を引いたのであらうし、そうでないとしたら、大事に育てた我が子我が孫たちに「このクソババア邪魔なんだヨー。」と言われてしまつたのかも知れない。いずれにしても、現在の、残された連中は、一応安定している。一応と書いた。これは、一部例外があるという含みである。つまり、二世代目あたりの一匹が、いつの間にか家中の中に住まなくなつたのである。雨の日でも風の夜でも、決して家中にはいない。物置あたりにでも入つて寝るのかも知れないのだが、それにしても、血のつながつた母親であり祖母である一匹が、他の猫たちと一緒に住まないで、窓から入ってきてエサだけ食べて、さつさと出ていくつてしまふありさまである。対人関係、いや対猫関係がますいのである。協調性がないのか主義主張が違うのか、わからない。

安定した精神状態を保ち、食事、睡眠、運動も充分である。もちろん、それぞれが、はつきりとした個性は持つてゐるのだが。

平和で安定した状態というのは、次の様なところにうかがえる。

家内が洗たく物を干しに外に出ると、決まって六匹の猫たちも外に付いて来る。そして、いかにもうれしそうに柿の木に登るのや松の木によじ登るのがいるかと思うと、黃色く枯れて積もったいちょうの落葉の上を、転げ回るものいる。そして、家内とのある一定の距離を保つて、それ以上遠くへは行かないものである。

洗たく物を取り込んだ時もおもしろい。家内が、シャツやタオルなどを、ゆつくりとたたんでいる時、猫たちは全部、家の中に入ってきて、家内のまわりに集まっているのである。ごろんと寝たり、やはり一定の半径の中で静かに安定しているのである。

食事やお茶の時には、必ずどれか一・二匹、家内のひざの上にいて、 目をつむつたり何か食べ物を期待して、それが当たり前という感じで

安定しているのである。そんな光景を見た近所の人は「あらあら、まるで赤ちゃんみたい」と笑つたそうである。この猫たちは、家内を母親だと思っているのか、それとも大きな猫だと思っているか、あるいは猫たち自身が人間だと思っているのかも知れない。

家内は猫たちに、エサや水を与えるまごまとした世話をすることによって、無意識的な愛を猫たちに伝えているのかも知れないし、猫は猫で、家内に対して強い信頼感を寄せている様に思える。

猫でさえこうなんだからと、ついつい思つてしまふ。まして人間においてやである。

そういうえば昔、普通の家では、まるでこの猫たちと同じ様に、子どもたちは常に母親の存在を確認し、その愛を感じながら、母親との一定の半径の中で、安心して遊び育つていったのではなかろうかと、最近特に強く思えてならないのである。



ていない。菅原現施設長、田中君、竹花さんが参加していたと思う。帰りの電車の中で、吊革につかまりながら、三人が熱っぽく話していた。そこにすがすがしい雰囲気を私は感じていた。

考えてみると、あのとき以来先生にお会いしたのは高々、数十回に留まるわけだし、お会いしている時間もいつも数時間以内なのだが、正直申し上げて、先生は私がもつとも感銘を受けたお方のひとりである。

最近は「感謝の集い」の時は恩恵も光の子どもの家に一緒におじやまとするのだが、帰りの新幹線の中の二人の話題には、必ず福島先生が登場する。先生の何がこんなにも人を魅了するのだろうか、二人はいろいろ推量するのだが、よく解らず、ただ二人頷くだけである。

先生が説教されているときのお姿が好きである。

小柄な先生がすくと皆に向かいて立たれると、全ての人を包み込んで立たれると、全ての人を包み込んで

も光の子どもの家に一緒におりやまするのだが、帰りの新幹線の中の二人の話題には、必ず福島先生が登場する。先生の何がこんなにも人を魅了するのだろうか、二人はいろいろ推量するのだが、よく解らず、ただ二人頷くだけである。

先生が説教されているときのお姿が好きである。

小柄な先生がすつと皆に向かいて立たれると、全ての人を包み込んでしまう大きさがそこに開かれる。先生は自然態で立っていながら実に姿勢がよい。剣道をやっておられと伺つたことがある。そのことに由来するものとも思われるが、むしろ先生の真つ直ぐな心が形となつて表現されていくのであろう。

である菅原施設長も、福島先生の前に出ると小さく見えてしまふから不思議である。

先日他大学で講義をする機会があつた。その大学の先生が小生の紹介を始めたのも私語の渦で、マイクを使つて話しているのに聞き取れないほどである。しまいにその先生は怒りだしてしまつた。この大学が特殊なわけではない。いずこも同じ最近の大學風景なのである。いつ頃からこんな風になつてしまつたのかハツキリしないが、この国の若者たちが、何かわれわれには理解できない方向に向かつて歩き始めていることは、間違いあるまい。

そして思うのだが、それは若者たちの責任と言うよりも、その若者た

愚妻の家がカトリック信者であること、小生もごく一時期教会に通っていたことなどから、何人かの聖職者を知っているが、福島先生は誰とも違っている。

何故なのだろうか。先生はその説教の中で、小生などがハラハラするくらい直截な世の中の出来事に対する批判を展開されるときがある。権威におもねるという言葉ほど、先生の反対側にある言葉はないよう思う。

A black and white line drawing of a wheelbarrow. The wheelbarrow has a wooden frame and a single large wheel on the left. It is filled with a variety of flowers, including tulips with long stems and clusters of small blossoms.

ちを育ててきたわれわれ大人たちの責任なのである。若者たちが悪いとうそぶくのではなく、自分たちの問題として引き受けなければなるまい。こんな時、福島先生の凜としたものの考え方方に触ることが出来ると、忘れかけていた大事な事どもを思い起こすことが出来るのである。

いや、いつまでも先生が理事長を辞任されたことを惜しみ、嘆いていても、それは先生の意にそうこととも思えない。

光の子どもの家の全ての人たちが子どもたちの幸せのために更なる働きを進められることを切に祈ることだけが、私に許されることであろう。

彫刻家 中島 瞳雄

福島先生には開設並初から理事長として光の子どもの家を支えていた
だいてきた。遠くに住んでおられる
ということもありお会いできるのは
理事会の行われる年に数回。感謝の
集いの行われる十一月三日は、その
数回のうちの大切な一回だった。ゆつ
くりお話をする時間があつたわけで
はなかつたが、それでも福島先生の
背筋をピンと伸ばされた凛としたお
姿と奥様の優しく柔らかい笑顔にお
目にかかるだけで心が癒され、力が
湧いてきたのである。福島先生ご夫
妻はそんな不思議な力をお持ちの方
である。そう感じているのは決して
私だけではないと思つ。

A black and white line drawing of a hanging basket containing a flowering plant, likely a pansy or viola, with heart-shaped leaves and a purple flower.

先生は開設以来お近づきの大先輩といふ感じで私たちの理事長をお受けになつていただいたことはうれしく思つておりますが、飯田先生をお迎えし理事長として戴いた今も、私はやはり福島先生も未だに理事長なのである。理事長がお二人になり大変心強い・・そう思つてゐる。

公のお立場では理事長とは呼ばれなくなつたとしても、子どもたち、そして私たちの応援者のお一人でいて下さることを信じてもいる。

お二人の理事長とたくさんのご支援の方々にお応えできるよう、開設当初の気持ちを忘れず、十五年の経験を生かし、子どもたちとの生活をよりよいものにしていきたい。

私は、子どもたちと共に和室に通されました。とても静かで落ち着いたお部屋なのに、子どもたちが入つた途端、その静けさは、けし飛んでしまいました。子どもたちのまわりには、緊張の糸はどこにも見えないほど、賑やかに騒ぎ始めました。

いかと、ハラハラドキドキでした。
数分後、なんと・案の定というかなんというか・・あア・・。奥様がお出し下さったジュースをひっくり返し、テーブルに敷いてあつた真っ白なレースのセンタークロスを汚してしまったのです。なんと言うことか！急に暑くなつた空気を感じながら、私は赤面して、申し訳ないやら恥ずかしいやら消え入りたい思いで、五万回も謝りました。

奥様は、「子どもはみんなそういうものですよ、洗えば元通りになるのですから・・いいですよ大丈夫。」とおっしゃりながら娘な顔一つなさいませんでした。その時は、ほつとして本当に救われた思いになつたことでした。

それ以来、福島先生ご夫妻は、私の憧れの星・理想の夫婦像的存在になつてゐるのです。 池田祐子

ひかりのこ

とき、集まつたメンバーは、皆個性豊かな癖の揃いでした。癖がなければ、その地域でかなり知られていた福祉施設を飛び出して（追い出され？）、全く何もないのに「理想的な施設をつくりたい」などとは言い出さなかつたでしよう。もちろん、信仰や祈りもありましたが、意地や行きがかりといったやや胡散臭いものも一緒に混ぜ合わせて我武者羅にやつてきたように思います。しかし、今、静かに振り返つてみますと、そんな我武者羅の中にも、聖靈が働いて下さり、万事を益として下さつた主の摂理の大きさを思ひます。

レールがあれば、どんな貨物も新幹線も、それなりに走れるものです。が、レールを敷きながら、しかもレールが取り外されたり、乗らなかつたりするものですから、設立のメンバー、特にその理事長の采配は大変なことであつたろうと思います。

いろいろな障害がある中で、（特に施設開設時に、町長が子どもの住民登録を拒否したときは大変な騒ぎになりました。）とにかく、皆が心をひとつにしたことは、目的意識の鮮烈さと共に、福島先生のメンバーひとり一人への配慮があつたように思います。特に、菅原先生を支えて、

も根源的な意義があることだと思うようになりました。後年、私も新潟で老人福祉施設の理事長を引き受けざるを得なくなり、ずいぶん逡巡したものですが、その折り、福島先生を思い起こして受諾したことでした。これは必ずしも一般論で言えることではなく、それぞれの個別の事例だと思いますが、その良い点は、靈的な指導性をあげることが出来るでしょう。準備会や理事会の折り、先生から教わる聖書のことばが、やはり全ての事業の推進力の根源でした。先生の説教は、身近な、時には時事問題を取り上げつつ、いつの間にかみ

施設もかつての野武士のような雑兵集団（？）から大分洗練された近代的・優秀な職能集団になつたことだと思います。

でも、いつまでも福島前理事長と共にした草創の時を、私たちが持ち続けた、あの情熱と献身は忘れないで欲しいと思います。

草創の時・福島時代と共にして

前理事 原田史郎（日本キリスト教団東中通教会牧師）

「光の子ども家」が設立されるとき、集まつたメンバーは、皆個性豊かな癖もの前�でした。癖がなけぬ持ち味でした。設立当初は、難問題続出で、ひとつの山が解決すると次の山があり、ひとつの小さなこ

私は、社会福祉法人の理事長や施物心両面で励ましておられた様子を覚えてています。

）とばの深みに導かれるものでした。
また、福祉に関わるとき、その人の人権といいますか存在に対する無

私は、社会福祉法人の理事長や施設の長に、牧師が兼務することは余り良いとは思っていませんでした。牧師職も疎かになりますし、福祉の専門知識も乏しくはなつたので、正

ことばの深みに導かれるものでした。また、福祉に関わるとき、その人の人権といいますか存在に対する無限の肯定を持つことです。ひとり一人に対するイエスの私たちに対する愛のまなざしが欠けてはならないものでしよう。



加工仕上げ作業場は、水浸しで真っ黒な焼け跡となってしまっていた。石油ストーブの周りの焼け跡が酷くそこが火元と思われたが、前後の状況からかなりの不審をも抱かせるものでもあつた。

消防署と警察署から、その作業場の責任者であつた私に事情聴取のために出頭するようにと立ち会つた職員に伝言されていた。

当時私は東京都N区にある婦人保護施設寮で指導員として働いていて、荻窪からやつて来る寮長の福島勲先生に電話で状況の報告と今後の対応などについてご相談をした。グリーティングカードの仕事を出してくれていた出版社や印刷会社などへの賠償の問題などもあり当惑もして

養
語
ノ
干

なさい。これから先のある若者が警察だの消防だのに名前など残さない方がよい。」と言われてさつさと電話を切ってしまった。

福島先生とはそれ以来のお交わりをいただき、ご迷惑やご心配の限りをおかけしてきた。そのお交わりの中でたくさんの大切なことを教えていただいても来た。

先に述べたように、面倒くさい厄介なことはさつさとご自分がお引き受けになり、決してそのことを自慢されたり、口に出されることさえなさらなかつた。

福島先生のご友人が責任者のキリスト教内外協力会といつていった機関のご紹介による神奈川の児童養護施設への就職の面接にもご一緒してくれた。

に憶えていて、あれは寮生が職員の
気を惹くためなどにした放火だと今
でも確信している。それを、福島先
生は、関係機関に頭を下げて回られ、
鮮やかに始末をして下さり、そのこ
とについて何一つ問題にすることも
なさらなかつたことを。

また、福島先生は、「み栄えのた
めにならぬことは言つたりやつた
りしてはいけない」と口癖のように
言われた。わたしたちが信じている
イエス・キリストのみ栄えのために
ならないこと、ばかりをしてきたよ
うな私にある。

だから、他人の話などは評価や名
誉になるようなことが殆どで、自分
が言われて嫌になるような陰口など
の類を福島先生からお聞きしたこと
は見事にない。

つい、自分の家のそれよりも脳裏の
襞に刻み込まれていてる先生の電話番
号を押してしまいそうになる。

先生とのことなどを書くことにな
れば、これまでお闇わりいただいた
私の半生と同じ年月をかけても書き
尽くせないだろう。

今もなお座右の銘としている、そ
んな福島先生のお教え下さった事ど
もと、私の言動は常に衝突ばかりを
してきている。

それでもそのような愚かしさえ用
いられ、何とか子どもたちとの暮ら
しをつくることが出来ているのは、
信州の山奥からの福島先生ご夫妻の
お祈りと、多くの方々のお支えと、
自らを省みない熱情溢れる働き手に
依つてのこと以外何もない。

養詠人千
7
出会い
報せを受けて駆けつけたときは既
に鎮火していく消防車も消防隊員な
ども引き上げた後だった。
一九六五年、春先の冷たい風が闇
暁の彼方から吹いて来ていたことを
今でもはつきりと思い出される。
貸しあむつ『ゆりかご舎』を廃業

菅原 哲男

中で福島先生は、「これからは独りで大変だろうと思う。どこまでやれるか分からぬが、もし仕事がうまくいった時には一緒に働いている人たちの手柄にし、失敗などは自分の責任だと思うように」、と諭してくださいさつた。

その時、私はあの失火事件のことを思い出していた。火元の確認は私の仕事で、いつも最後に見回つてい

どもの家の設立準備から十七年にも及ぶ光の子どもの家の責任者となつていただいた。この間、幾たびもの困難や私の愚かさ故の苦難などに心を碎かれ、熱い祈りを伴つた働きを展開されて、ようやくここまで辿り着くことが出来たのである。

そんな福島勲先生がこの三月末で理事長を退任された。

今もなお信じられないようなこと

奥様に作つていただいたサンタの
衣装、美味しかつたスイートポテト、
秘伝のレシピも教えていただいた。
余つた布の利用法、手作りの品々の
ことも忘れない。

生臭さも漂つてくる。泥まみれの運動靴があちこち。叫びたいのを少し抑え、「命の大切さ」を説き、一緒に川に帰しに行く。「今度『ザリガニの恩返し』があるかもね。」と話しながら。そんな夏休みも、遠くに行ってしまった。 竹花 信恵

ときには、どんな場所でお会いしても、必ず歩を止めて、こちらの目をしつかり見つめて、「お元気ですか?」と尋ねてくださるお二人です。何もない時には、「お陰様で」等と答えられるのですが、心が弱っている時には、それだけで、もう涙がこぼれてしまいそうな、そんな暖かな、強いまなざしなのです。

あれは、当時高校生だった匠が家を出でしまった冬。給湯室にいた私は奥様が声をかけられました。

「お元気?あなたが一生懸命やつて下さっているのは、わかっているのよ。」・・・合わせる顔がない、とい

えてくださっていた福島先生ご夫妻に、本当にありがとうございましたと、心から申し上げ、ご健康をお祈りいたしております。岩崎まり子

日本で一番若い児童養護施設、私たちの家も十四年余りの歳月を重ねた。人で言えば思春期真っ盛り、ということだろう。生まれる前から、設立以前から、福島先生には見守り続けていただき、今に至っている。

ある時には、壊れそうな瞬間があつた。バラバラになりそうだつた。そんな時も、家の柱のように、園庭の大ケヤキのように、静かに、毅然と支えてくださつた。ある時には私の将来や家族のことを心からご心配下

ことを基本にして、この家が大人になつていく日々に備えたいと思う。生き物の最も激しくうごめく季節であるこの夏。出来るだけ早く通り過ぎたいと思いつつ、ものを見つめるキラキラした眼にはかなわない。ヘビがいた、と聞こえれば、私は部屋で静かに身を固くし、ミミズを集める幼児には近づけない。玄関では、バケツの中のザリガニたちが、がさごそと音を立て、今にも這つてきそ

この仕事をしたいという気持ちだけ
でここへ来て、十五年になろうとし
ています。

基本的には、やはり好きで、自ら
選んでここに居続けているわけです
が、楽しいことばかりがあつたわけ
ではないので、本当にいろいろな方
に支えていただきながらの十五年で
あつたことを思います。何がある毎
に、それは心からの感謝と共に思い
起されるのです。

せんでした。先生は、いつも職員の心身の健康を気遣つてくださり、「私の家を職員の休暇のために開放してもいいと思つてゐるんだがね。」と何度かおつしゃつてゐるのを耳にしたことがあります。「私なんかは、全然わからぬからね。」と言つてゐました。が、一番お分かり下さつていたと思つています。

思いこみだけで走れた時代、それだけではダメだとわかつてからの、

原田家日記

ずつとお元気で、と心から願う。

光の中で

う思いと、あのまなざしと、腕に触
れられた暖かさが入り混じつて、私



今年度も基準外職員確保のための第6回ハサーアーを
行なうことができました。

おかげさまで売上げ5千円となりました。

皆さまの御協力ありがとうございました。

なお来年度もハサーアーを行う予定です。

御協力をよろしくお願いします。

光の子どもの家ハサーアー実行委員会

日誌抄 = 暮らしの風景 =

1999年 3月1日 ▶ 5月末日

3月 幼児 6名 小学生 5名 中学生 9名 高校生 10名
措置外 3名 (求職者 2名 未自立 1名)

2日 江森ヘヤーサロン散髪ご奉仕

3日 高山嬉不動丘病院通院

4日 高校入試合格者 3名のお祝い会

7日 須賀退学・退所

8日 原道小学校の先生方と職員との連絡会

14日 ネパールよりビシュヌー・パラジュリ氏 3週間の
予定で研修に来訪

16日 大利根中学校卒業式

23日 原道小学校卒業式
○ 車由子入所。インタークワーカーで倉沢が担当する。

24日 新制作座のご招待で穴水と子ども 6人、ビシュヌ
さんと大宮ソニックシティへ

25日 大阪勇不安定な生活続く

27日 第56回理事会。事業計画・予算案の審議承認など

29日 高山不動ヶ丘病院に入院
今月の物品のご寄贈者 町内: カモメ文具 大沢商店 オ
オタニ 今閑公雄 加須市: 宮崎ヒロ子 東京都: 劇団新
制作座小野宏 大宮: 大高晋一郎 蓮田: 永野三恵の各位

4月 幼児 5名 小学生 7名 中学生 7名 高校生 11名
措置外 2名 (求職者 1名 未自立 1名)

2日 日本小型自動車振興会の補助内定通知書受領会

5日 進学進級祝を実施

8日 小学校 中学校 県立高校入学式

9日 大利根藤幼稚園入園式

10日 ネパールより研修に来訪していたビスヌー氏帰国

15日 後援会役員会
今月のご寄贈者 町内: 小野雄一 加須市: 梓沢あづさ
梅沢三保 三国コカコーラボトラーズの各位

5月
5日 第14回子どもまつり
9日 菅野圭樹医師が来訪 10名を超える子どもたちの
診察と担当者への関わりのスーパーヴァイズ

10日 江森ヘヤーサロン来訪し散髪ご奉仕

12日 光の子どもの家後援会草取りご奉仕

28日 春日部保健所厨房等の立ち入り検査

29日 第57回理事会 事業報告と決算報告案の承認

31日 後援会総会
今月の寄贈者 栗橋町: タカラブネ 北川辺町: 増田博
加須市: 横村すみ子 栗橋キリスト教会 蓮田市: 永野三
恵 他バザー用品のご寄贈多数あり
この年度も多難の予感で始まりました。皆さまのお支えに
より子どもたちの暮らしを創って参ります。(くら)

反 射 光

☆すっかり晩秋の景色から冬支度へ
と季節の色は変わりつつあります☆引
き続いての発行の遅れをお詫びします。
この年の多難さは、まさに十五歳にな
った光の子どもの家の思春期そのも
のと言えます☆それでももうダメか
と思う絶望的な困難を乗り越えられ
そうな希望を与えられ、職員は皆頑
張っています☆困難はそれから逃げず、
それを克服した者に大きな成長をもたら
すことを確認しております☆高校二
年生が二人退学しました。しかし、
それぞれ新しい生活や仕事の中で頑
張り始め、困難の時には考えられな
かったほど輝いた表情を見せてくれま
す☆また、職員関係も大変な状況を
経験することで新しい展望を持つこと
が出来ております☆これを新しい世紀
に向けての展望にすることが出来るよ
う次の年度への計画にいそしみます☆
第十五回感謝の集いも多くの方々の
ご参集によって盛会裡に挙行しまし
た☆それら一切をを力点にし、もう
一度原点に立ち返り励みます☆重ね
てのご支援を!

(哲)